

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0291000016		
法人名	社会福祉法人 三笠苑		
事業所名	グループホーム サンライフ碓ヶ関		
所在地	青森県平川市碓ヶ関鯨森90-1		
自己評価作成日	平成25年9月1日	評価結果市町村受理日	平成26年1月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然に囲まれた広い敷地は、夏は農園や花壇づくり、日課の散歩やその他の色々な行事等、多目的に使うことができます。また、併設のデイサービスや児童館との交流にも役立っています。
地域に根ざした施設を目指し、地域の諸行事にも積極的に参加して、住民との交流に努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成25年10月20日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者ができる事はしていただき、利用者の役割感の創出と生きがいとなる支援に努めている。保育所・児童館の幼児童や系列デイサービス利用者との交流がある他、ホーム正面の広い前庭はホーム行事以外にも地域住民の交流の場として利用されており、利用者の状態の維持・改善にも良い環境となっている。
また、災害対策では、過去にホーム近くで発生した土砂崩れを教訓として、日頃から利用者の安全対策に取り組んでおり、市から防災取組優良事業所として表彰されている他、地域で災害が発生した際の被災者受入事業所としても指定される等、地域住民にとっても大きな安心となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が共同で事業所理念を作り、毎朝の申し送り時に唱和して共有し、実践に取り組んでいる。理念の中に地域密着がくみ取れるように文書化し、意識向上に努めている。	地域からの要望があつてホームが設立されており、管理者及び職員は地域密着型サービスの役割を理解し、ホーム独自の理念を掲げている。理念は毎日の申し送りで唱和している他、ホーム内に掲示して共有化を図っており、職員は利用者のこれまでの生活に配慮しながら、目配り、気配り、心配りの行き届いたサービス提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加し、また、事業所の行事に盛り込んで、地域の方々と交流をしている。	ホームでは広い前庭を地域住民との交流の場として開放している他、地区の各種行事に参加したり、地域住民や婦人会、赤十字奉仕会等が訪問し、交流を図っている。また、小学生の体験学習を受け入れている他、認知症の介護予防教室を開催し、相談を受け付けたり、情報交換をする等、ホームの社会的機能・役割を果たしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護予防教室を開催し、介護や認知症を理解していただくように努めている。また、介護についての悩みや相談を受け付け、福祉について地域に情報を発信している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、出席者の意見や要望、アドバイスを活かし、改善や実践に努めている。	家族代表や民生委員、学識経験者、市の担当課職員等がメンバーとなり、2ヶ月毎に運営推進会議を開催している。ホームからは自己及び外部評価結果、諸行事や事故防止への取り組み等について報告し、メンバーから提案があつた際にはサービスの質の向上につなげるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからない事や困った事は必ず担当者に相談し、確認する等、協力をいただいている。また、パンフレットや広報誌を配布し、外部評価報告書等を提出している。	市の担当課職員が運営推進会議に毎回参加している他、広報誌や自己及び外部評価結果、目標達成計画等を提出し、ホームの実態等を理解していただいている。また、ホームの運営等に関する疑義事項についてもその都度照会する等、行政との連携がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルや研修会・学習会を通じて理解を深め、職員は身体拘束について理解し、実践している。月1回、職員会議を開催して業務改善を図り、危険防止に努めている。また、施設周辺を警察の巡回コースにしてもらう等、協力を働きかけている。	研修会や会議を通じ、身体拘束の弊害や具体的行為について理解しており、身体拘束を行っていない。利用者の無断外出時に備え、警察への情報提供やホーム周辺の定期巡回を依頼している他、地域の協力員からも応援が得られる体制となっている。また、万が一の場合に備え、記録様式や体制を整えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や学習会を通じて理解を深め、虐待についてよく理解し、入居者様の様子や変化には常に注意を払い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用して入居者様があり、担当者と協力、連携を取りながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要事項説明書と運営規程を説明し、理解・納得していただいた上で署名・捺印をしていただき、一部ずつ保有している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している他、面会時や電話・家族アンケートを実施して要望や意見を伺い、職員間で話し合い、改善や実践に努めている。意見表出ができない入居者様については表情からくみ取るように努めている。	毎月、家族に利用者のホームでの暮しぶり・受診結果・金銭管理状況等を報告している他、年1回、無記名のアンケートを実施する等して、意見の把握に努めている。また、玄関に意見箱を設置したり、苦情相談受付窓口を掲示しており、要望・苦情等のある場合は、内容を検討し、サービスの質の向上やホーム運営に活かせるように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回、法人から職員へ個人調書が配布され、法人や事業所への要望や意見を記入し、職員の意見を聞く機会を設けている。	年1回、事業運営等に関する要望等を「個人調書」で求め、法人本部に提出しており、職員が意見を法人に対して述べられる体制となっている他、日常的に意見を聞く姿勢を持ち、出された意見をホーム運営等に反映できるように努めている。また、利用者と職員の馴染みの関係を保てるように、地元の職員を配置する等の取り組みも行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出勤簿で勤務状況や職員の努力、実績を把握し、就業規則や給与規程等に基づいて整備され、職員のやりがいや向上心が持てる環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所独自の年間研修計画を作成しており、職員が平等に受講できるように配慮し、職員の資質向上に努めている。また、資格取得に向けての助成金制度が確立している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行事等を通じて他施設との交流を持ち、職員のサービスの向上につなげている。また、グループホーム協会の研修会や交流会に参加し、情報交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談の段階から施設見学や本人へ面会する機会を設け、不安や要望を聞き入れ、コミュニケーションを図りながら信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に説明した上で、家族の意見や要望、不安に思っている事を受け止めており、相談は常時受け付けており、連絡や報告を密にして家族が安心できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と十分に話し合い、必要としているサービスを検証し、場合によっては他のサービスを紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護される側の立場に立って、できる事を見つけて自立支援を実践している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加や面会を呼びかけ、家族との交流の場を設け、家族の意見を反映させながら理解と協力をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用していた馴染みの商店や美容室等を入居後も利用したり、面会や外出も気軽にできるように支援している。	利用者がこれまでと変わらない生活を送ることができるよう、地域の特性に詳しい地元出身の職員を配置する等して支援に努めている。利用者の生活歴やリズム、生活環境等を参考にして、知人達との交流を継続できるように支援している他、家族の協力も得ながら馴染みの場所へ出かけられるよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が関わりが持てるように、職員が間に入り、コミュニケーションが円滑に図れるように支援している。また、できる人ができない人を支えることが自然に行われており、職員はさりげなく支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、本人、家族の状況を把握し、いつでも相談に応じられるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居様のお話を傾聴し、日常的な会話から本人の思いや意向をくみ取り、また、生活歴や家族からの情報を基に、本人の希望に沿えるように努めている。	利用者の側で話をすることで安心感を持っていただき、希望や意向を把握するように努めている。また、利用者同士や職員との相性にも配慮しながら支援に努めており、必要に応じて家族や関係者からも情報収集し、意向等の把握に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様や家族とコミュニケーションを図り、生活歴や生活環境を全職員で共有し、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活に気配りし、一人ひとりのできる事や一日の過ごし方、生活のリズム、現状を把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス計画作成時には、本人の意向を聞き、困難な場合は家族の意向を確認した上で作成している。また、計画を見直す際にも、意見や気づきを収集して再アセスメントを行っている。	利用者の意見を引き出し、利用者が生きがいを持って暮らせるように、できる事を行えるような介護計画を作成している。また、各担当者が意見を出し合い、必要に応じて訪問看護師等の意見も聞きながら介護計画を作成しており、利用者の心身の状態変化やマンネリ化防止にも配慮し、随時見直しできるように取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や身体の状態等、職員の気づきを記録し、月1回のカンファレンスで職員全員で共有して介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様や家族の状況を把握し、その時々に必要なサービスの提供や支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	文化祭等の地域行事への参加・見学をしている他、地域住民のボランティアも受け入れている。地域の警察・消防署とも連携を取り、安全に安心して暮らせるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に従って受診し、受診状況を把握して、かかりつけ医との連携に努めている。	利用者のかかりつけ医や協力医療機関での受診に加え、法人の訪問看護師による健康指導等があり、気になる事があれば相談し、アドバイスを得ている。また、受診時には、利用者の症状改善につながるよう、詳細な報告を行うことに努めており、利用者及び家族の安心となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護を利用しており、入居者様の体調を報告・相談し、対応している。利用日以外でも体調に異常がある場合は連絡・相談し、指示を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に入居者様が認知症であることや日々の状態等の情報提供を行い、入院治療について病院関係者や家族と相談・協力し、支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応について入居時に説明し、重要事項説明書を通じて、入居者様・家族からの同意を得ている。	入居申込時に、ホームでは利用者が重度化や終末期に至った場合の取り組みを行っていないことを説明している。また、ホームでの対応が困難となり、当ホームから他の関連福祉施設や医療機関等を利用する場合には、家族が不安を抱かないように情報交換を密に行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時、すぐに対応できるようにマニュアルを作成し、常に見える場所に掲示しており、敏速・冷静に行動できるようにしている。また、AEDを設置し、いつでも対応できるように、救急救命の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼夜想定避難訓練の実施と消火器具の点検を行っている。災害時には近隣の協力員や消防・警察からも協力が得られるように働きかけ、同意を得ている。また、災害発生時に備え、食料・飲料水・カセットコンロ・反射式ストーブを用意している。	火災・水害・土砂流等を想定し、年2回、デイサービスと合同の避難訓練を実施している。他、日頃から、螺旋階段から降りる訓練も行っている。業者によるスプリンクラーや通報装置等の定期的な点検の他、避難路の草刈りや雪片付け等を職員が行っている。また、市から防災取組優良事業所として表彰され、災害発生時には地域住民の被災者受入施設にも指定されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ介助やおむつ交換時、着替えには十分に配慮し、自尊心やプライバシーを損ねないように、適切な言葉かけや対応を心がけている。	利用者の言葉を受け止めて会話をするように努め、介助時等は利用者の羞恥心や自尊心に配慮している。また、声かけや対応に間違いがある時は、職員間で再発防止に努め、職員一人ひとりが努力目標を立て、日々の支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時、できる限り本人の希望に沿って、一方的にならないようにしている。また、いつでも好きな音楽を聴いたり、見たいテレビを視聴できる雰囲気づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外での散歩を希望する入居者様や居室で休んでいたい入居者様等、無理強いすることなく、本人のペースで希望に沿えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは本人の好きな物を選んでいただいたり、要望により美容院に予約を入れたり、出張していただく等の支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下準備や食器洗い、テーブル・お盆拭き等、一人ひとりが役割を持ち、毎日お手伝いをしていただいている。献立に苦手なものがある場合は代用品を提供している。	法人の栄養士が献立を作成し、職員は利用者の好き嫌い等を参考に調理しており、苦手なものには代替品で対応している。利用者はそれぞれの能力に合わせ、食事の下拵えやおしぼりたたみ、トレイ拭き、下膳等に参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取が取りづらい方には、トロミを付けたり、ストローを使用し、確実に摂取できるように支援している。チェック表により、食事摂取量・水分量を記録し、把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔洗浄を個々の状態や自立度に応じて支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、排泄パターンの把握に努めている。食前・食後、または個人の排泄能力に応じて声がけし、トイレ誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。	利用者それぞれの排泄パターンを把握し、一人ひとりに応じた誘導支援を行っている。オムツやパットの使用については随時見直し、オムツからリハビリパンツへの改善事例もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	昼食時に牛乳を提供しているが、苦手な方には乳酸飲料で代用し、対応している。また、軽体操や歩行運動を行っている他、下剤の調整により、定期的に排泄ができるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	一人ひとりの入浴習慣や好みを把握し、入浴剤等を工夫している。入浴を拒否した場合は、日を改めて入浴していただいている。	週4日の入浴日を設け、利用者のこれまでの入浴習慣と残存機能にも注意しながら、過剰介護とならないように支援している。また、ユニットにより入浴日が異なるため、希望時には入浴できる体制であり、無理に勧めず、本人が入りたい気持ちになるまで待つこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の状況や希望に沿って、ベッドの位置を変えたり、状況に応じて対応している。ベッドサイドのライト等、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個々のファイルに綴って確認し、変更については必ず全職員に連絡ノートで確実に伝達・周知している。また、確実に服用したことを確認した上で、服薬後の経過と変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や要望により、得意な事を見極めながら役割を決めている。季節の行事を取り入れながら、好みのドラマ視聴やDVD鑑賞等、楽しみながら生活が送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を聞いて、ドライブや買い物、外食に出かけ、気分転換を図っている。また、家族との外出や外泊の機会が持てるように働きかけている。	近隣の道の駅やスーパーへの買い物、外食等に出かけている他、散歩や家庭農園をしたり、家族同伴で近くの施設の友人を訪問する等、できる限り外出し、解放感が得られるように支援している。また、利用者に行けそうな場所を紹介して選んでいただく等、希望する外出先の把握に努め、体調や天候も考慮の上、外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に説明し、預かり証、承諾証等を取り交わした上で、自身で管理できる場合は所持していただき、困難な入居者様には職員が対応し、お金を使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望する時や家族から電話が来た場合に対応している。家族が遠方にいる入居者様には手紙のやり取り等、家族との交流を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースにソファを設置し、季節の花や写真等を飾り、気持ち良く過ごせるようにしている。室内の温度・湿度にも気を配り、季節を感じられる飾り付けを心がけている。	全館バリアフリーのホームは床暖・空調設備が整えられ、天窓からは柔らかい日射しが差し込み、快適な空間づくりがなされている。廊下には粋な木製の椅子を置いたり、ホール中央にソファやテーブルを置き、利用者がゆっくりと思いいに寛ぐことができるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	苑庭、ホール、廊下には座る場所があり、思い思いに寛げるスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、自宅で使用していた家具や使い慣れた小物等、馴染みのある物を持って来ていただくように働きかけ、安心して住みよい環境となるように支援している。	馴染みの物の持ち込みを家族に積極的に働きかけており、愛用のテーブルや位牌等が持ち込まれている他、食事時の茶碗は、一人ひとりが持参した物を使用している。また、利用者の使い勝手等も考慮してベットの位置を決める等、居心地良く過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーで対応し、廊下・居室には手摺りを設置して安全に努めている。各居室にはトイレが設置されており、自立した排泄が行える。		